

会 議 録

会 議 の 名 称	第 21 回 垂水市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会	
開 催 日 時	令和 6 年 8 月 26 日（月）	14 時 45 分から 15 時 35 分まで
開 催 場 所	垂水市役所 第一会議室	
出 席 者	委員（佐野 雅昭委員、崎野 剛委員、堀之内 学委員、川崎 あさ子委員、 福里 由加委員、森 真由美委員、川筋 貴子委員、村野 剛委員、 川井田 守委員、清水 誠委員、市渡 しのぶ委員） 事務局（堀留企画政策課長、二川企画政策課総括監、羽生課長補佐兼政策推進係長、 福永主任主事、隈崎主事、迫田主事）	
会 議 事 項 等	1 開会 2 審議 (1) 第 2 期垂水市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証について (2) 令和 5 年度新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金事業の効果検証について 3 閉会	
会 議 の 経 過	発言者	意見等
	1 開会	
	事務局 1	只今より、第 21 回垂水市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会を開催いたします。 委員の皆様は、先ほど開催されました、垂水市総合開発審議会から引き続きのご参加となりますが、どうぞよろしくお願いいたします。 次に委員の出席状況についてですが、先ほどご確認させていただきました通り、定足数を満たしておりますので割愛させていただきます。 それでは審議に入りますが、ここからの議事進行については、審議会設置要綱第 5 条第 3 項の規定により、引き続き会長にお願いしたいと思っております。
	議長	それでは引き続き議長を務めさせていただきます。佐野でございます。よろしくお願いいたします。 それでは審議に入ります。 審議事項 1「第 2 期垂水市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証について」でございます。 事務局より説明をお願いいたします。
	事務局 2	《資料に沿って説明》
	議長	只今事務局から資料 1 の説明をいただきました。 委員の皆様からも、これにつきましてご意見、ご質問等いただきたいと思いますと考えております。 昨年はこちらからそれぞれの委員に振らせていただいたところ、充実した意見交換ができたということがありますので、今回も何人かの方にまずご意見をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。 それではまず、A 委員をお願いいたします。
	A 委員	11 ページの 3 の商工会イベント運営事業についてです。 昨年は 4 年ぶりに開催された夏フェスタでは、多数の来場者もあり、大きな賑わいとなりました。市からの補助金も支出されており、大変感謝するところでございます。 フェスタに限らず、新型コロナウイルス感染症も 5 類に移行したこと

		から、様々なイベントが開催されるようになります。 今後も引き続き、イベントの支援を行っていただければと思います。 さて、市の商工業を盛り上げるためにはイベント支援だけではなく、小規模事業者向けの支援も必要だと考えているところでございますが、小規模事業者に向けた支援について、何かお考えがありましたらお聞かせください。
	水産商工観光課長	令和6年4月から商工会からの要望により、商工業の推進及び商店街の活性化を図ることを目的に、市内の小規模小売業者等への支援として、既存の店舗改修等に係る支援事業、また新規開業店舗への支援事業を行う小売業等店舗整備・開業支援事業補助金を開始しております。 具体的には、小売業等店舗整備につきましては、小売業等を営む事業者の店舗の改装、さらに設備購入に係る経済的負担を軽減し、事業の継続や新たな集客に繋がるための店舗整備支援事業補助金、また、市内で小売業等を開業しようとする、小規模事業者の経済的負担を軽減する、小売業等開業支援事業補助金の2つの補助金制定により、商工業の推進及び商店街の活性化を図りたいと考えているところでございます。以上でございます。
	委員 A	ちなみにどのぐらいの申請件数があるのか、教えていただけますでしょうか。お願いします。
	水産商工観光課長	8月23日現在で申請件数6件、問い合わせ件数5件となっているところでございます。
	A 委員	ありがとうございます。イベント支援だけではなく、小規模事業者向けの支援をご検討いただいているとのことでした。 市の商工業者の方は非常に感謝をしているかと思います。本当にありがとうございます。 今後も市内事業者と連携を図りつつ、商工業の振興のため、お力添えをお願いしたいと思いますので、今後とも一緒になって、垂水の商工業を盛り上げていければと思います。私からは以上です。
	議長	ありがとうございます。 続きましてB委員いかがでしょうか。
	B 委員	今回、私からは2点ほど質問をしたいと思います。 新型コロナウイルス感染症も5類に移行して、インバウンドの需要が報道でも大きく取り上げて取り上げられていると思います。 垂水市においても、3つの拠点を中心に、観光事業を発展させていただきながら、資料の8の1番上にありますように、総交流人口についても記載しております。 これを見ますと、令和5年度の数値が195万人となっております。これは恐らく、昨日も垂水市のはまびらというところでイベントがありましたが、鹿銀の支店長をはじめ、商工会の皆さんが一生懸命誘導をしていたり、水産商工観光課の皆さんや、市内の各業者の皆さんが、こういった見えないところで努力した賜物ではないかと、本当に感謝しております。 最近では、宮脇公園に新しくグランピングの施設が開業をしまして、この3つの拠点に加えて、また1つ新しいスポットができたと考えます。 市長はよく、交流人口200万人を目指すとおっしゃられておりますが、達成するのではないかと期待しております。 このグランピングの管理についてですが、もう少し私も含めて、一般の皆さんは、グランピングの管理やルールっていうものがわからない方

		もいらっしやると思いますので、この仕組みのところを詳しく教えていただけないかなと思っています。
	土木課長	これまで、土木課で管理しておりました宮脇公園につきまして、本年4月より、株式会社 DENKEN 様に、公園一帯の除草作業や、トイレの清掃等を行っていただき、指定管理者の契約を結んだところでございます。 この管理業務の他、株式会社 DENKEN 様の自主的な事業として、カフェやグランピング施設の計画があり、市民のみならず、本市を訪れる皆様にとりましても、宮脇公園の魅力の発信や、にぎわいの創出など、本市にとりまして、観光振興に寄与する施設であるものと判断しているところでございます。簡単ではございますが、以上でございます。
	B 委員	ありがとうございます。維持管理もされながら観光振興に結びつくつていうのはとてもすばらしい取り組みだと思います。 垂水市も、いろんな形で連携していただけたらなというふうに思います。よろしく願いいたします。 2つ目の質問になるんですが、インバウンドの状況について報道等では取り上げられてることが多いのですが、桜島の方までは、たくさんの海外のお客様がいらっしやるのを見るんですけど、海外の人たちをどういうふうにして垂水・大隅へ呼び寄せたらよいかと思っているところです。そのためには何が必要なのか、垂水市だけでなく、もっと広域で検討してみてもいいと思いますので、これについて何か考えがあれば教えてください。 また、報道で、オーバーツーリズムの問題について取り上げられることが多いと思いますが、このオーバーツーリズムの対策も踏まえて、今後の観光振興のため、水産商工観光課としてどのように考えているかというところを少しご意見いただきたいなというふうに思っております。
	水産商工観光課長	2点質問があったと思いますが、まず広域での連携についてお答えいたしたいと思います。 県や大隅広域観光開発推進会議、地域連携DMO株式会社おおすみ観光未来会議、地元ツーリストなどの関係観光機関と広域的に連携しており、クルーズ船への商材セールスや、垂水市観光協会におけるインバウンド研修会の開催など、インバウンド施策を推進しているところでございます。 次に、オーバーツーリズムの対策を踏まえた今後の観光振興に対する考えにつきまして、お答えいたします。 千本イチョウや高峠等の資源を活用した観光振興に努めるとともに、遊休地の活用やアウトプットにより有効なオーバーツーリズム対策を企画していきたいと考えているところでございます。 今年度、本市におきましても、オーバーツーリズム案件が1件発生したところでございます。 連休に開催いたしました、垂水市漁協のカンパチ祭りでは、おかげさまで大盛況となりましたけれども、大勢の来場者によりまして、本市の幹線道路であります国道224号で渋滞が発生し、近隣の地元住民や来場者に変な迷惑をかけましたことから、来年度に向け、実行委員会で協議しながら、万全な対策に努めて参りたいと考えているところでございます。以上でございます。
	B 委員	水産商工観光課の皆さんは、観光振興だけではなく、水産振興、商工業の振興をされ、市の特産品や地域資源を活用した形で、それぞれの分野の振興に頑張ってください、大変感謝しております。

		我々もですね、行政の皆さんに任せるだけではなくて積極的にこの垂水市を盛り上げていきたいと考えておりますので、これから一緒に垂水市を盛り上げていければ嬉しいなと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。
	議長	はいありがとうございます。 それでは続きましてC委員いかがでしょうか。
	C委員	子育て支援に関することで質問させていただきたいと思います。 14ページの3、子ども医療費助成事業に関してなんですけれども、子どもは病院を受診した際に、診療が終わって会計まで待っている間に、帰りたいとぐずり、大変なのですが、この窓口負担ゼロということで、大変助かっております。周りの子育て中のお母さん方からも、大変感謝しているという言葉をよく耳にしております。 また、この4月から、0歳から2歳児の保育料の無料化や、あと給食費の無料化など、子育て支援には大変力を入れてくださっていて、感謝しております。給食費などもとても助かっているという声をよく聞きます。 実際私のように、今子育て中だと、この無料化っていうのは、身をもって感じるのですが、これが実際に今から子供を産み育てる世代へ、具体的に出生数の増加に繋がるような検討を今後どのように考えているのか、またお聞きしたいです。
	企画政策課長	C委員のご指摘はもっともで、我々にとっても必要な視点だと思います。 ただ、今の時代、価値観が多様化し、単純に産めよ増やせよというようなことはなかなか言えないのが現状でございます。 そうした中、物価高騰等による経済的な不安、男女の仕事と子育ての両立の難しさ、子供や保護者を取り巻く、地域の繋がりの希薄化などにより、結婚、出産に対して躊躇される方も多いのではないかと考えているところで、そのような人の不安を軽減、解消していくことが、結果として出生数の増加に結びつくものと考えているところです。 委員からもありましたけれども、子ども医療費窓口負担ゼロや、0歳児から2歳児までの保育料無料化、小・中学校の給食費無料化を妊娠期から子育て期まで切れ目のない支援について、垂水市では積極的に取り組んでいますが、こういった取り組みも継続して実施していきたいと考えております。 また、子育て世代のテレワーカー育成事業やファミリーサポートセンター事業、放課後児童クラブ等の女性が出産育児をしながら働き続けることを可能とする環境整備等、ワークライフバランスを推進し、仕事と子育ての両立を支援していきたいと考えているところです。 その他、結婚新生活支援事業についても継続して取り組むなど、婚姻に対する経済的支援についても引き続き取り組んでまいります。 このように、複数の支援を行うことで、結婚、出産、子育てがしやすい環境を整備することで、いろいろな不安を取り除き、出生数の増加に結びつけたいと考えているところです。 また、これらの支援策については、情報発信も重要な要素だと考えています。 これまで市広報誌、市公式WEB、市公式LINE等を通じて行っている他、移住者を対象に、ライフステージ別リーフレットを発行するなど、情報発信に努めているところです。 今後も新たな情報媒体について検討し、効果的な発信ができるよう努

		めていきたいと考えておりますので、今後ご理解とご協力をいただきますようよろしくお願いいたします。 結果として、今、総合戦略の中で位置付けて、経緯をずっとみていますが、なかなか数字的な結果は出てないのですけれども、もし、こういう取り組みをしなかった場合は、数字的に下がっている可能性もあり、C委員がおっしゃったように、色々と評価していただいている方が多いとの声を聞けば、一定の成果があるのかなと。こういった声が、情報発信と共に広がって、ここの成果指標の部分がどんどん上がっていくうえで、企画政策課で成果指標の数字についてはずっとチェックしていきたいと考えているところです。
	C委員	ありがとうございました。 子育て支援センターを利用する方の中にも、外国人の方が利用され、多様化していますので、また今後も子育て支援への対応とかですね、よろしくお願いいたします。
	議長	続きまして、D委員お願いします。
	D委員	垂水市でも高齢化がかなり進んできていて、一人暮らしの高齢者がなかなか買い物に行けない。私の母も一人暮らしをしておりますが、買い物等に不安を覚えており、車に乗ることへの不安を覚えるところですが、私も仕事で、母の面倒を見れなかったりするので、行政のお力を必要としている年頃になったんだなと思います。 また、地域と行政が一緒になって支援する仕組みを考えなくてはいいけないと思います。 資料21-3の、地域包括ケアシステムの構築に関して、質問させていただきます。 相談業務や認知症対策として、チームオレンジの設立などのたくさんの取り組みをされており、大変ありがたいと感謝しています。 ですが、高齢の方についてはいろんなケースがあり、中には家族や親戚、知人がそばにいない場合もあります。 そんなときに、買い物や病気、訪問し支援する制度があればいいなと思っていますが、お考えはございますか。
	福祉課長	高齢者の支援に関しましては、介護保険制度を中心として支援を行っているところでございますが、買い物支援、通院支援等の生活支援の部分において、介護保険制度のみで支援が十分行き届かなくなっているのが現状でございます。 このようなことから、福祉サービスの中で、閉じこもり防止が主な目的ではございますが、移動支援として利用できる「たるたるお出かけチケット」や今年度より免許を返納された75歳以上の高齢者を、対象としシニアカー購入補助金を開始いたしました。 また、地域の民生委員等と情報共有しながら、個別のケースに対しても対応しているところではございますが、ケースすべてに対応することは難しい状況にあることから、地域の中でも、買い物や通院支援等の生活支援に関する困りごとに対応できるよう、生活支援体制整備事業の中で、地域の中の課題を地域で解決できる体制づくりの支援を行うことで、地域で支え合える取り組みができるよう、多様な支援体制の構築を図っているところでございます。以上でございます。
	D委員	ありがとうございます。 先ほども言いましたが、高齢者の方々の中には色々な条件の方がいらっしゃると思います。子供はもちろん、地域の高齢者または障害を持つ家族の方とのつながりをどうやったら築いていけるのか、地域との関わりがだ

		んだんと薄くなっている世の中に対してできることがないのか考えています。 民生委員さんはボランティアで動いてらっしゃるので、無理を言えないことは十分わかっているのですが、隣同士のつながりが希薄になっておりまして、ましてや子供食堂で弁当をお配りすると、最初の頃はお金を渡される方が多くいらっしゃいました。 私たちは、お金をいただくことで運営はしておらず、いただいた寄附でこのような弁当を作っているということをお伝えして、今は弁当をもらっていただけるようになりました。 また、子供食堂は公民館を使用しており、今まで使用料を3年間払って参りましたが、市民の皆様から、子供食堂の公民館の使用料を払わなくてもいいようにならないでしょうかというお声があったようで、今月から無料になりました。 やはり使用料は、月に1回2回事業を実施すると、それだけお金がかかり、その使用料にかかる経費で他のものを買いたいという気持ちがあるので、垂水市が少しずつ前に進んでくださったのだなと感謝しています。 これからもずっとずっと、私たちは応援したい人たちがいっぱいいますので、垂水市と一緒に、行政と一緒に子供食堂が長く続いていけたらいいなと思っております。
	議長	ありがとうございました。ではE委員お願いいたします。
	E委員	資料16ページの1、垂水高等学校振興対策事業について質問させていただきます。これをみますと市も色々と支援をなさっているということでございます。 家庭科三冠王、冷凍めん料理コンクール最優秀賞受賞、地方創生政策アイデアコンテスト、社会を明るくする運動法務大臣感謝状受領等、輝かしい評価が出ており、これは非常に素晴らしいことだというふうに思うわけですが、目標値として設定をしている、入学者定員充足率がちょっと今ひとつということです。 これは、私立への進学率はどこも非常に高く、私学の方も色々と工夫をしているところでしょうけれども、公立への進学率が低下は、少子化も進んでおり、なかなか難しいなとは思いますが、垂水市唯一の高等学校ですので、入学者の確保という点について、検討していただければと思います。 例えば高校と垂水中央中学校のイベント交流とか開催すればいいと思うのですが、この垂水高校の進学率向上のためにどのように考えておられるのか教えていただければと思います。
	教育総務課長	垂水高校に対する支援につきましては、平成23年度から行っておりますが、平成28年度からは、高校生への入学を支援するということで6つのサポートを、令和4年度からは7つのサポートをしているところでございます。 その成果と言えますことが、委員が言われました通り、昨年度、13年ぶりに国立大学への入学を達成しましたし、高校の独自の取り組みとして、探求をする時間ということで、総務省の地方創生アイデアコンテストに九州代表として、県の代表として出場するなど、様々な成果が出てきた1年だったかなというところです。 その中で、委員からお話がありました通り、なかなか定足率の成果がでない教育委員会でも認識をしている状況でございますので、引き続き進めていきたいと思っております。

		では、お話がありました、垂水水高校と垂水中央中学校のイベント交流についてご説明いたします。 まず、垂水高校と垂水中央中学校との交流につきましては、これまで垂水中央中学校、垂水高校、教育委員会の3者が連携し、垂水高校の先生方による授業体験など、取り組んできております。 また、昨年度は中学生との交流だけではなくて、保護者に対しても、PTA研修の一環として報告をさせていただき、垂水高校の取り組みや魅力を紹介するなど、現状を説明したところでございます。 さらには、絵本の読み聞かせなど、小学生との交流も始めており、小学生から垂水高校というところの魅力をしっかりと発信していきたいと思っているところでございます。 今後も3者が連携し、様々な交流を通じて、様々な場面で垂水高校の魅力を引き続き発信していきたいと考えております。 次に垂水高校への進学率の向上のためにどのように考えているかという点についてお答えいたします。 進学率向上に関しまして、先ほど申し上げました通りですが、昨年度からですね、今年の8月8日に新聞等で全国の公立学校の進学希望調査の表が出ておりましたが、その調査が現在6月末から7月ぐらいに実施されますので、その頃に近隣の鹿屋市の垂水高校生の出身中学校のところに訪問をしまして垂水高校の7つのサポートや、垂水高校の魅力について、直接、校長先生や教頭先生の方にお話をし、進路指導の先生へお繋ぎをしているところでございます。 そのように生徒だけでなく、保護者を巻き込んで、高校の魅力や生徒の確保を引き続きしていきたいと考えているところでございます。
	E 委員	ありがとうございます。色々行っていることがよく分かりました。 全国的な少子化ということで、私学への進学率が非常に高く、垂水高校への進学者の確保はなかなか難しいというのはよく分かりました。 もうこれは、県下の公立高校どこでも言われていることなんでしょうけれども、垂水高校は、垂水市の振興のため重要な施設なのかなと思っております。 また就学支援ということで、地域業者についてもよく考えてくれることも大事だと思います。 先日、認知症サポーター養成講座へ行きましたが、そこでの垂水高校の生徒たちの福祉についての深い考えをみて、一緒にいた講師の先生が、こうだったらうちの子供も進学させたいと言っていたのがすごく印象的で、地元の就職にも繋がってくると思います。 例えば、今介護事業所は、人がすごく足りないと言われていますが、そこで、地元就職につなげるための奨学金とか、例えばですがそんなのも考えていただければありがたいと思います。 例えば生活デザイン科の中で、介護講習みたいなのが、もし、できるのであれば、さらにいいのかなと思っています。 今後生徒数の確保については、ご尽力をいただければと思いますのでよろしくお願いいたします。
	議長	ありがとうございます。 まだまだ他の委員の方々からも色々ご意見、ご質問等あるかと思いますが、時間も押しておりますので、その他ご意見、ご質問がありましたら、本日、お手元にお配りしました意見書へご記入いただいて、事務局にFAX、メール或いはWeb申請等でご意見をいただければと思います。

		また、特に様式にこだわりませんのでメールにベタ打ちでもいいと思います。どんな形でも、何かありましたらご提出いただきたいということでございます。 申し訳ありませんけど本日は時間の関係で、皆様からの質疑はこれで終了したいと思います。 もう一度言いますが、ご意見があればまた後日提示していただければと思います。よろしくお願いいたします。 それでは審議の2番目に移りたいと思います。 令和5年度新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金事業効果検証についてでございます。事務局からご説明お願いいたします。
	事務局2	《資料に沿って説明》
	議長	概ね効果が高かったということですが、時間の都合もありますのでとりあえず、1人ご意見を伺いたいと思います。 F委員、いかがでしょうか。
	F委員	5つの事業があるうち、4つの事業はA評価ということで、どの事業もととても効果があったということが分かります。 特に、1ページの3、「今こそ元気に！プレミアム付商品券事業」については、「成果目標を上回る実績値」とのことですが、私も購入させていただいて、とてもありがたい事業だと思います。是非、今後も継続して実施していただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。 さて、資料2ページの5、新型コロナウイルス感染症セーフティネット強化交付金についてお尋ねします。 新型コロナウイルス感染症も、今は5類に移行して、コロナに対する私たちの考え方も大きく変わってきたと思うのですが、最近またコロナが流行ってきて、やはり、コロナは怖いと思います。コロナだけでなく、物価高騰やその他の健康問題など、いろいろな要素がありますので、自殺を考えてしまう方は少なくないと思います。 資料には実績についての数値も載っていますが、これだけたくさんの方が、電話やSNS等で相談してきたというのは、私たちが考えているより深刻なことなんじゃないかなと思います。 そういう意味で、とてもありがたい事業を展開されたのではないかと、感謝するところです。 そこで、今後、自殺防止のため、どのように事業を展開していくのか、お聞かせいただけませんかでしょうか。
	保健課長	新型コロナウイルス感染症セーフティネット強化交付金を活用した自殺対策事業としましては、令和3年度から本格的に垂水市において、こころの寄り添い相談事業ということで実施しております。 相談者の多様化する悩みやライフスタイルに対応するため、対面、電話、LINEで相談をできることにより、多くの方からの相談に対応することができています。 令和5年度の相談件数実績は280件ほどありまして、年代別に見てみますと10代の方が75%で、内容については、生きづらさという問題が28%、家庭の問題が23%。また経済的な問題が19%で病気の問題19%という値になっております。 また、新型コロナウイルス感染症セーフティネット強化交付金を使用した事業ではありませんが、子育て世代を対象とした子供のSOS受けとめ方講演会や、市内の小中学生や教職員の方を対象としたSOSの出し方教育事業、SOSの受けとめ方研修なども併せて実施しているところです。

		これにつきましても、今後継続して実施していくことで、自殺防止に努めていきたいと考えているところです。以上でございます。
	F 委員	先ほども言いましたが、色々なことが起こり、また、色々なことが変わったりして、生きにくい世の中になったんだと思います。 この SOS の出し方の講演会ですが、うちの子供たちも数年受けさせてもらっています。最初の頃だったと思うんですが、テレビのインタビューでお友達が、どうでしたかというふうに聞かれて、「弱音を吐いてもいいんだなって思いました。」って言ったことがすごく印象的で、10 代の 75% で生きづらさを感じているというところで、この講演会に対してとても意義があるものなんだなというふうに感じたので、これから子供たちにそのような機会をぜひ与えていただけたらと思います。 これからも皆さんの心により沿った事業を行っていただきたいと思います。ありがとうございます。
	議長	ありがとうございました。 それではこれで審議事項すべて終了しましたので、議長の任を解かせていただき、事務局へお返しします。
	事務局 1	ありがとうございました。 以上で、第 21 回垂水市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会を終了いたします。
会 議 結 果	・総合戦略効果検証（4 年目）について審議会委員による外部評価がなされた。審議会委員については、別途意見がある場合は、後日事務局へ意見を提出することとなった。	
会 議 録 の 作 成 方 法	☐ 録音媒体を使用した全文記録 ☐ 録音媒体を使用した要点記録 ☒ 要点記録	
特 記 事 項	無し	